

私たちの  
森林再生  
ストーリー



## 山麓の市・村が抱え続ける 「日本の森林」の課題。

戦前までの「日本の森林」は本当に美しかった。

しかしながら現在、その美しかったはずの森林の多くがあまりにも放置され、**湿地帯**と化してしまっている。そのことによって、このままでは日本が取り返しのつかない状況に陥ることを、どれだけの人がご存知でしょうか？

私たちの力は微力かもしれない。でもわずか数平方メートルでも「日本の森林」を再生しよう。そんな想いを胸に、私たちは「森林再生」という物語をスタートさせました。

日本の森林が

荒んでいく・・・

このまま指をくわえて

待っている訳にはいきません。



今ある日本国土の約半分は  
“一度だけ”手を加えられた後、  
放置され続けているのです。

終戦直後、日本政府の決定によって国土の7割は杉や檜など針葉樹  
が植林されました。当初は将来の建築材料にするための計画でした  
が、建物の主流は鉄とコンクリートに変化。木材需要が減少した上に、  
必要な場合は安価な南洋・カナダ産に委ねられるようになりました。  
そもそも製木業は商売として成立させるために、とにかく長い年月  
がかかります。木を植えて、間伐\*をし、下草を刈って、木が育つのを  
待って選別、そしてりっぱな木を収穫し、はじめて商売となります。  
海外から輸入した方が手っ取り早いし、日本の比ではない豊富な  
木材資源がある海外から輸入する方が、当然安く手に入れることが  
できます。

その結果どうなったか？

日本の森は、“一度だけ”手をつけられたあげく放置されたのです。

※間伐…主な木の生育を助けたり、採光をよくするために、適当な間隔で木を伐採すること。

ご存知ですか？  
一度手を加えた森は  
手を加え続けなければ  
ならないことを。



飛散するスギ花粉



雨による土砂崩れ



人里で捕獲される動物

上流の森林が荒れるとき、  
下流の海も荒れる。  
「災い」は森林から下ってくる。

## “放置”が巻き起こす「災い」

放置された森林は間伐されないので、根元まで日が射さなくなり、木がひ弱になります。生物の性(さが)で、子孫を残すためになんとか生きようとし、毒性を強めます。その毒こそ日本人の20%が悩まされる現代病「花粉症」の原因なのです。

また、ひ弱な木は雨に弱くなり、流木化しやすくなります。先の新潟中越沖地震の被害のほとんどが、この流木による土砂崩れだったことも記憶に新しいことでしょう。

さらに荒れ続けた森林は、動物のエサである木の実の成長を阻みます。それによって、リスなどの小動物ならまだしも、熊、鹿、猪などが食べ物を求めて人里に現れ、人家を襲うこともしばしば報道されています。捕まった動物たちの爪の間には、湿地帯と化した森林で大繁殖を引き起こしている「蛭」が挟まっていることも多く、いかに森林が放置されているかがわかります。

ほかにも最近よく言われる二酸化炭素問題。森林は二酸化炭素を酸素に変える能力を持っていますが、放置林は太陽光が差し込まないため光合成ができず、本来の約1/10の処理能力しかないと言われています。

このように森林がもたらす「災い」は、単に森林だけのことでなく、実に多くの実害をもたらしているのです。

# 職人が現役の今こそ 日本の森を再生できる 最後のチャンス なのです。

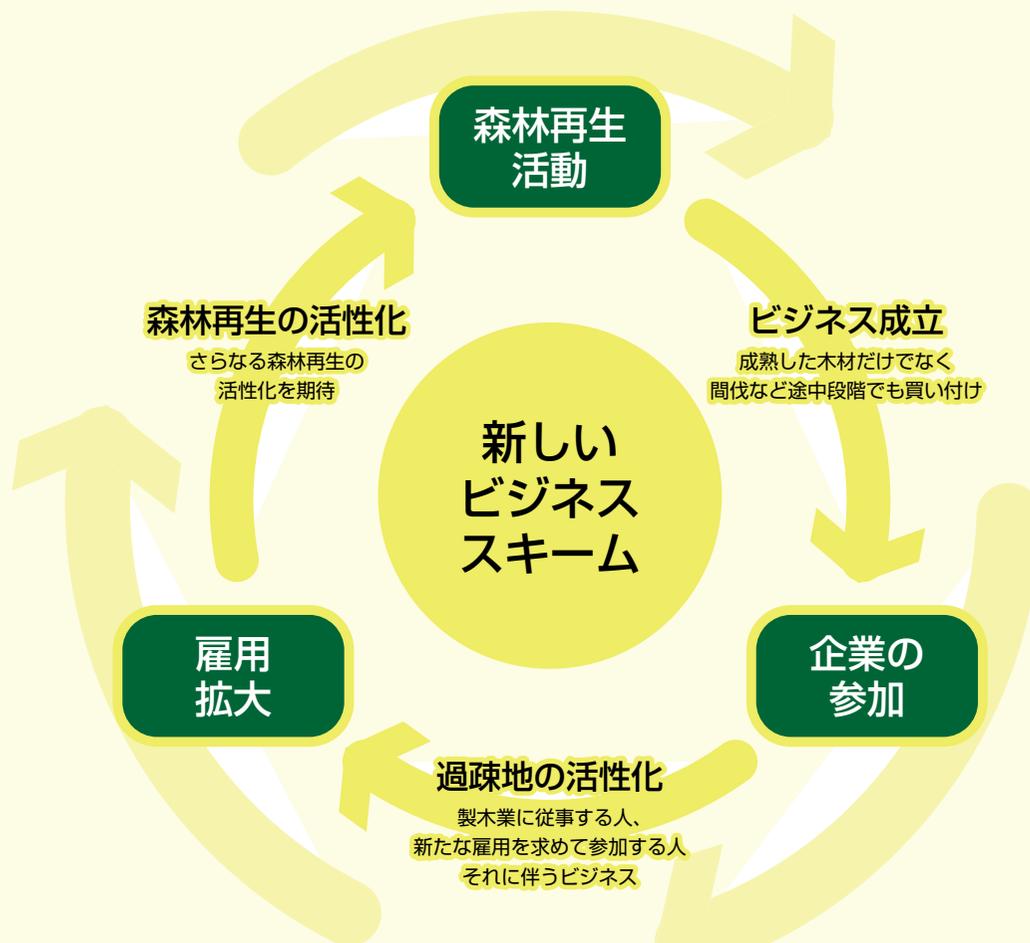
## 課題は職人の技術継承

現役の製木業に従事している方にとって、放置された森林では仕事がありません、一ヶ月中に一週間仕事があるかどうか、という状態だそうです。そのような状況下では、森林職人の“生きた”技術を継承するものはほとんどなく、60歳代でも若い方、80歳代でも現役の方もいらっしゃるようです。

農業学校の森林学科などでは森林資源の有効利用の授業もありますが、中心はバイオの研究。これでは森林を育てるノウハウは、現役職人の代で断絶してしまいます。

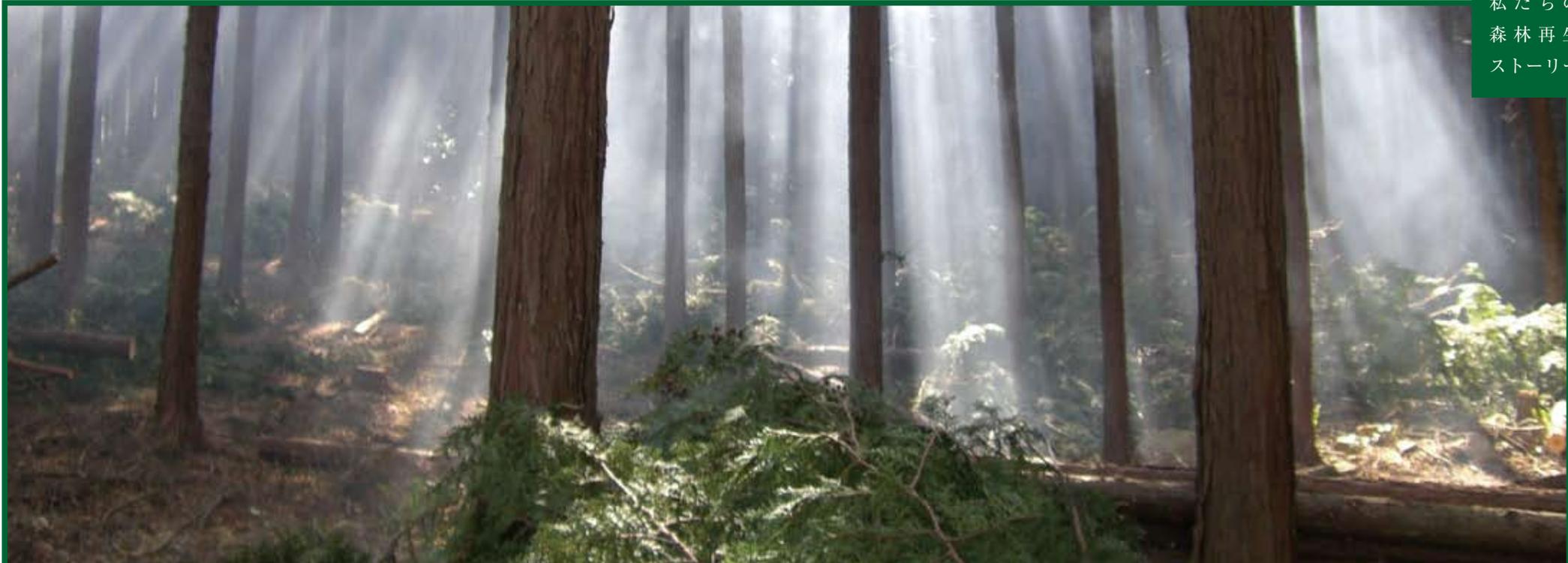
だからこそ日本人の手によって日本の森を守るのは今しかないのです。この最後の機会を逃しては、日本の森林に再生はありません。





日本の森林が放置された理由。それは、針葉樹はりっぱな木に育つまで相当の年月がかかり、ビジネスとして成立させにくく、企業が手を引いてしまったからです。その問題に対して私たちがご提案したいこと。それは「成熟した木に育つ前にも成立するビジネススキーム」を作ることによって、「森林再生活動⇒企業参加⇒雇用拡大⇒森林再生活動…」といったサイクルを生み出すことができる、ということです。このサイクルの完成によって森林に人が増え、それに伴う飲食や住居などその他のビジネスも栄え、過疎地の活性化をも期待できると考えています。

今、森林再生に必要なのは、  
「新しいスキーム」であると  
ご提案します。



2万5000m<sup>2</sup>の森林が  
すでに生まれ変わりました

成熟した木にならなければビジネスにならない、この固定概念を覆し、企業参加を促すために「産業廃棄物」だったはずの下枝などを「おがくず」にして、それを製品化することに成功しました。

例えばある運送会社様にご利用いただいているカーボンシート。すでにかかり流通しており、計算上2万5000平方m<sup>2</sup>の森が再生しています。

この活動によって森林職人の仕事が増えただけでなく、熱心なボランティア活動の方々のご協力もいただき、前ページに記載した目指すべく好循環サイクルを本当に実現しつつあるのです。

もうすでに、  
私たちは  
本当の「エコ」  
のために、  
動き出して  
います。

ある製紙会社が

木材からセルロース抽出するために

輸入している南米産の松は月に数千トン。

これだけの量を国産の木材でまかなえば、

わずか十年で日本国土全ての森が再生されるのです。

国産の木を使う、国産の木を材料にする、

まずそう発想していただけないでしょうか？

上流の林業が発展すれば、

下流の全てに幸をもたらすことは間違いありません。

私たちの届く力は、広い日本に対しては本当に微力です。

ぜひとも多くの方々のご賛同を得て、

日本全国の森林を再生させたい、そう考えています。